特集

伝えたい！パラアートの魅力

圧倒的なパワーを放つ作品の数々

8月26日から9月4日まで、調布市文化会館たづくりにて開催された「パラアート展2021」。力のこもった作品の一部と、当日の様子をレポートします。

見て、触って、感じてほしいアートとしての面白さ

調布市内の福祉事業所などで制作された、個性あふれる作品を展示したパラアート展。コーディネーターである師井栄治さん（調布美術研究所代表）にお話を伺いました。「既成概念にとらわれない自由な表現が彼らの作品の最大の魅力。『これは何だろう？』『こんな感じ方もあるんだ』など思い思いに心を感じ、作品のパワーを体感してほしい。今回「さわれる展示」など、参加して遊べる工夫もしました。アートを純粋に楽しめる空間になったと思います。市民の皆さんにもぜひ、福祉事業所でこんなにかっこいいものが作れるんだということを、広く知ってもらいたいし、事業所のメンバーやスタッフの自信にもつながるのではないかと期待しています」

調布市パラアート展2021

共催：調布市／調布市福祉作業所等連絡会
協力：アフラック・ハートフル・サービス（株）／京王観光（株）／（公財）調布市文化・コミュニティ振興財団／調布美術研究所
参加23団体より、約130作品、キューブ（ワークショップ作品）190作品を展示

3つのワークショップを軸に多彩な作品が集結

当初は大人数での共同制作も考えていましたが、コロナ禍で断念。コーディネーターが提案した「布アート」「織アート」「キューブ」という3つのワークショップから事業所ごとに選び、制作に取り組みました。

「自分たちに合ったテーマが選べたので、事業所の個性がよく出た作品になりました」と話すのは「すまいる」アート担当・枝松和子さん。「メンバーが自由な発想で、どんどんアイディアを出してくれて…。当初私が想像したのとは違う感じでしたが（笑）、エネルギーのある素敵な作品が生まれました」

また、普段の活動にもいい作用が。福祉作業所の場合、日常の作業にどう取り組んでもらうか、ということばかりに意識が傾きがちなのだそうです。しかしアート活動を通して新たな一面や可能性を知ることができ、支援の幅が広がり、メンバー自身の意欲につながったと感じる場面もあったようです。

ワークショップ作品1

キューブ

一人一人が自由に描いた色とりどりの絵をキューブに。積み上げたり、組み合わせることで新たな表情が。

ワークショップ作品2

布アート

大きな布にみんなで思い思いに彩色やデコレーション。塗り方の違いや色の出会いで様々な色彩が楽しめます。

ワークショップ作品3

織アート

毛糸やリボン、テープなどを巻いたり織り込んだり。見る角度によって生まれる様々な表情を楽しんで。